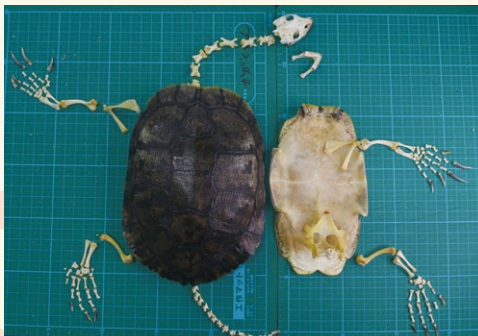


バラバラの骨を組み立てる

春は出会いと別れの季節。仲の良い友だちともバラバラに…。私がバラバラで思い出すのはカメの骨格標本作成です。骨から肉を完全に落とすために、ピンセットや爪楊枝もつかってクリーニングしました。当然ながらその過程で骨はバラバラになります。バラバラになった骨を組み立てるのは、実物を知っていて、参考資料を見ながらでも大変です。

今生きている動物でさえ大変なのだから、絶滅してしまった動物、まして参考となりそうな近い仲間が絶滅してしまった動物の復元は非常に困難です。科学館のホールに展示されている首長竜も例外ではありません。首長竜の場合、最初に発見されたときは頭がしっぽの先につけられて、前後逆に復元されていました。

という話が残っています。考えてみれば、今生きているハ虫類には、トカゲのようにしっぽが長いものはいませんが、首長竜のように首が長いものはいません。研究者が間違えたのも無理はないでしょう。これほど大胆な間違いではありませんが、当館の首長竜にも本来の姿と異なる部分がいくつかあったため、首長竜の復元骨格の修正を行ってきました。この修正により首長竜はより真実に近い姿になります。今後の研究でさらに正確な姿が明らかになるかもしれません。季節も人も古生物の復元も、移ろいゆくものなのです。



バラバラになったカメの骨格

ショー

各イベントの時間・定員・申込方法などは科学館ホームページで確認してください。

ワークショップ

28 小学校・中学校・学年向けかがく教室
光の箱をつくらう

海を観る・地球を知る2021オンライン講演会「回転水構造物から学ぶ大気と海洋の流れのしくみ」

おはなし

27 造花でハーバリウム作り

おはなしライブ

21 小学校低学年向けかがく工作室
五月人形くがぶとをつくらう

小学校高学年向け理科実験室
偏光板でつくる万華鏡の世界

14 平出さん・中村さんのマジックショー

13 ペーパービーズのネックレス

7 お家で遊ぼう！色で遊ぼう！

3月 イベントカレンダー

ヒトコマトリビア

こう見えてもアンモナイトです

アンモナイトと言えば、うずまき型を連想しますが、まるで絡まってしまったようなアンモナイトもあるのです。日本の石という意味の“ニッポニテス”はそんな異常巻アンモナイトの1つで、思わず「なんじゃこりゃ」と言ってしまうそうです。

また、アンモナイトの化石表面にウニウニした模様が見ることがあります。これは縫合線と呼ばれるもので、殻の内側を仕切っている壁が表面に表れた模様ですが、このかたちでアンモナイトを分類することができます。展示室で縫合線の見えるアンモナイトの実物を観察できます。ぜひご覧ください。



ニッポニテスさん